

花一会図書館便り

6・7月号 花一会図書館 作成/令和7年7月15日発行

【TEL&FAX】

0136-57-6085



花一会 HP



Facebook



Instagram



X(旧 Twitter)

花一会は町内の 学校支援も行っています！

【昆布小学校・蘭越小学校・蘭越中学校】

花一会図書館の司書職員が毎週学校を巡回し、学校図書館（旧図書室）の図書の整理、展示や表示物作成をして、いつでも子どもたちや先生が利用できるようにしています。



昆布小学校



蘭越小学校



蘭越中学校

4月に完成した新しい学校図書館



蘭越小学校3年国語
「本を使って調べよう」

学校の情報教育・調べ学習の授業に司書職員が図書資料をもって参加して、授業の支援をしています。



蘭越中学校1年総合
「アイヌ調べ学習」

小学校は国語の時間、中学校は行事の時間を利用して、司書職員がブックトークをして本の紹介をした後、図書館から持ち込んだ本の中から、子ども達が読みたい本をそれぞれ自由に選んで学級文庫をつくる、「みんなの本だな」（中学校は「ひろがる本だな」）を行っています。



昆布小学校
「みんなの本だな」



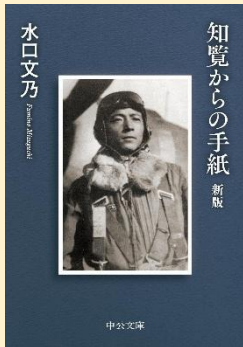
【蘭越高校】

学年ごとに花一会
図書館に来館して、
国語の調べ学習の授
業を図書の資料を
利用して行っていま
す。その時間、司書
職員も授業に参加し
支援をしています。



蘭越高校3年
国語課題研究

今月のおすすめ本 コーナー



『知覧からの手紙』

水口文乃(中央公論新社)

もう、二ヶ月になるだろうか。夜は、余りテレビを観ないのですが、或る番を喰いいる様に観ていました。母親らしき女性と、小さな男の子。その男の子は、2才半位から変わった言動をすると、母親が言います。空港の飛行機には全然興味が無く、本や博物館にある「戦闘機」に、異常に反応する。右のペダルを踏むと後ろの尾翼が動くと言いだし、次に画像を見せ、どれが好きか？と聞くと、即座にラファエルの「聖女子像」と、芳崖の「悲母観音」を指示す。

私の記憶はここまでなのですが、側にあるメモに、「チランからのてがみ」と殴り書きしていました。

今回、花一会さんに、はるばる遠軽町図書館から借りて頂いたこの『知覧からの手紙』を読み終え、久し振りに感動した。自分が日本人である事、特攻隊というものが、どのような意味を持つ物なのか、良く理解出来ました。愛する人が死の前にいる智恵子さんの想いと、愛する人と別れなければいけない利夫さんの想い、その二人の気持ちが、時代背景と共にせつなく響きました。生きてゆく時代は、良くて悪くても、その人その人の生き方に意味が或る。

今の若い人にどうこのこうのと言える身分ではありませんが、この春、何年かぶりに学校へ通いだした孫に、勧めたいなと思えた一冊でした。

(蘭越町 西村/2025年5月)



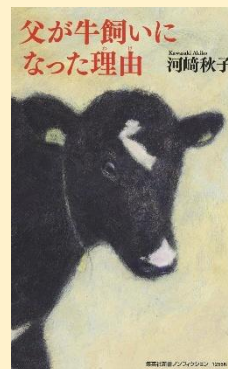
『人生劇場』

桜木紫乃(徳間書店)

作者が自分の父親をモデルに書き上げた。当然フィクションも多くあるのだろうが、幼少期から老齢期までを丹念に描写している。冷

徹な筆致ではあるが、時折娘としての情が顔を出し、人生劇場の主演である父への最大の賛辞となっている。

(蘭越町 笠井三葉留)



『父が牛飼いになった理由』

河崎秋子(集英社)

何故父は牛飼であったのか。父親の大病により、直にその経緯を訊くことが叶わなくなった作者が、一族の来歴を戦国時代にまで遡って自ら調べあげた。その時代を生きた人々の想いは、現在に収束し、そしてまた未来へと拡散していくのだ。

(蘭越町 笠井三葉留)